

大阪文化財センター調査報告XIV

蜂田鈴の宮遺跡発掘調査報告書

—日本住宅公団鈴の宮団地開発計画に伴う—

昭和50年8月

財団法人 大阪文化財センター

は し が き

財団法人 大阪文化財センター
理事長 加藤三之雄

堺市内には百舌古墳群や陶邑古窯跡群を始め著名な古代遺跡が多数遺残していますが、都市再開発は確実にそれらの遺跡を破壊、消滅させつつあります。開発と保存の調和をはかる文化財の今日の問題の解決は非常に困難なことでありますが、すぐれた文化的環境は祖先の残した歴史的遺産を継承し発展させる我々の努力によって創出されるものでありましょう。

昨今の自然環境や歴史的風土の破壊への反省や、`歴史ブーム`と呼ばれる歴史・文化財への関心は、文化財の今日的意義を考えていく千載一遇の好機であります。

今回、日本住宅公団関西支社の開発予定地内で新たに発見された遺跡が十分な調査のもとに、団地住民の生活空間の場に千古の眠りを破って甦ることを願ってやみません。

1975年7月

例 言

- 1) 本冊子は、財団法人大阪文化財センターが、日本住宅公団関西支社の委託を受けて実施した大阪府堺市八田北町所在、蜂田・鈴の宮遺跡発掘調査報告書である。
- 2) 本調査に要した経費¥2,607,000-は、すべて日本住宅公団関西支社が負担した。
- 3) 現地に於ける調査は、財団法人大阪文化財センター業務課調査室長、中西靖人の指示の下、主任、辻内義浩、同、国兼和雄が担当し、昭和50年6月2日から、同年7月3日までの間実施した。
- 4) 調査には、調査員として杉本二郎（立命館大学OB）、寺川史郎（京都産業大学OB）両氏の参加があり、調査補助員、山崎 博、木村宏史、松本 実の諸君の積極的な協力を受けた。記して感謝する。
- 5) 本冊子の執筆は、中西靖人、辻内義浩が担当し、全体の監修は中西靖人が行なった。また図版の作製は赤木克視氏の援助を受けた。
- 6) 調査に際して、積極的援助をおしきれなかった日本住宅公団関西支社の関係各位に深く感謝するとともに、作業員の派遣を快諾していただいた押井工務店に深謝する次第である。

目 次

はしがき

例 言

〔I〕調査に至る経過	1
〔II〕地理的環境と歴史的環境	1
〔III〕調査の結果	2
〔IV〕まとめ	4

図版目次

図版一	調査地域と遺跡分布図
図版二	トレンチ位置図
図版三	第1,4,5,6,7トレンチ地層断面図
図版四	第2,3トレンチ地層断面図、平面図
図版五	第1,2,3トレンチ写真
図版六	第4,5トレンチ写真
図版七	第8トレンチ写真

挿図目次

第1図	第8トレンチ出土遺物
第2図	第8トレンチ出土遺物
第3図	石鏃実測図

〔Ⅰ〕調査に至る経過

日本住宅公団関西支社が開発を計画している堺市八田寺町一帯の丘陵地帯について、同関西支社は、昭和48年及び昭和50年の前後2回にわたって、大阪府教育委員会に対して埋蔵文化財の有無について調査して欲しい旨依頼をした。

これを受けた大阪府教育委員会は、分布調査を実施し、昭和50年3月5日付、50教委文第190号により、遺物を採集したこと、及びこの採集地点付近は遺跡が存在する可能性があるので、遺構等の有無を正確に把握するための発掘調査が必要である旨回答した。

これを受けた日本住宅公団関西支社は、大阪府教育委員会の指導により、財団法人大阪文化財センターに、上述の主旨の発掘調査を依頼し、昭和50年5月31日付で委託契約を締結した。

これによって当文化財センターは昭和50年6月2日より調査を開始し、昭和50年7月3日に現地調査を終了した。

〔Ⅱ〕地理的環境と歴史的環境

和泉山脈から大阪湾に注ぐ石津川が和田川と合流する地点のやや北西の丘陵が今回の調査対象地域である。この丘陵は北に向って2つの谷をはさんで百舌古墳群の立地する三国ヶ丘を呈している。台地と連なる中位段丘であり、高い所でOP30m前後、又この台地と一段低まった河岸段丘部分も開発予定地となっている。この地域は石津川や和田川が丘陵地帯の樹枝状の谷をぬってちょうど平野部にさしかかる所に位置している。石津川の中流域には、下流の方から五ツ池、毛穴、万田の弥生時代遺跡が知られ、古墳時代遺跡は北方にあたる百舌古墳群から点々と古墳が台地上に連なり、又陶邑古窯跡が八田荘の南方にまで及んで存在している。奈良時代に入ると慶雲元(704)年創建と伝える家原寺があり、行基活動が伝えられている。更に石津川流域は条理制が施行されるなど各時代の遺跡が数多く知られ、該当地域の遺跡もこれらの遺跡群との相互関

係の中にその歴史的位置が求められる。

[Ⅲ]調査の結果

調査対象地域は東から西に向ってのびる台地と、それを基部に北西に向って連なる三つの舌状丘陵がそれである。

第1トレンチ 細くやせた尾根上に巾2 m、長さ50 mのトレンチを設定する。約10cmの腐食土の下は直ちに地山であった。腐食土中に二点、近世の磁器片が検出されたが、地山面に遺構は認められなかった。

第2トレンチ 三つの舌状丘陵の内、最も長く、その突端部に2本のトレンチを設定した。第2トレンチは尾根にそって巾2 m、長さ36 mで設定した。トレンチの南東部には円形（あるいは方形か）の隆起があり、この隆起の両端部では地山が人為的な掘削を受け地山がL字状に整形されていた。そこには暗黄褐色砂質土が堆積しており、この土砂は元来隆起部に積み上げられたものが流出したものと考えられる。

第3トレンチ 上記の円形(?)隆起部に第2トレンチと直交させた巾2 m、長さ15 mの第3トレンチを設定した。第2トレンチの如き地山を整形した痕跡は認められなかったが、溝状の掘り込みが検出された。(図版) この溝の形状、機能を追求すべくトレンチを拡張した。

第2、3トレンチの拡張区 14 m拡張したが、その中央部で巾90cm、深さ10cmの溝状の掘りくぼみが「く」字型で検出されたがその機能は判明するに至らなかった。又、遺物も検出されずこの遺構の掘削された時代も不明である。

第4トレンチ 第2トレンチの南東部、舌状丘陵の中央部にあたる所は平坦地となっている。その中央に巾2 m、長さ21 mのトレンチを設定した。表土の腐食土は耕土であり、その直下は地山である。畑の開墾によって平坦化されたものである。近世土器が数点出土したが遺構は検出されなかった。

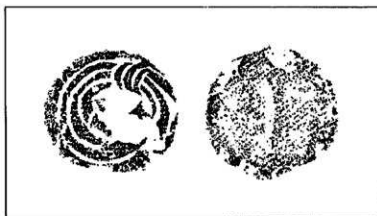
第5トレンチ 第4トレンチの南東は約1 m高まって、平坦面を呈している。平坦中央に巾2 m、長さ22 mのトレンチを設定した。同じく近世土器や最

近の瓦の出土を見た他、遺構を伴うものではないと考える。

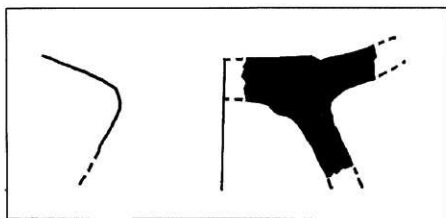
第6トレンチ 第2～5トレンチのある丘陵の西斜面に、斜面と平行して巾2 m、長さ30 mのトレンチを設定した。表土下は、流出土が幾層にも堆積し、表土下1.5 mで灰白色砂質土の地山が認められた。流土中（黄褐色砂礫層）より古墳～平安時代の須恵器片が一片出土したが、他所より流入したものである。このトレンチ内にも遺構、特に予想された竈跡は検出し得なかった。流土は当然丘頂部よりのものと考えられるので、あるいは第2、3トレンチで検出遺構を覆っていた封土の可能性がある。

第7トレンチ 第6トレンチの下方、これと平行して斜面が傾斜変更して平坦になった所に巾2 m、長さ30 mのトレンチを設定する。第6トレンチと同様、流出土の堆積が厚く、表土下1.3 cmにまで至っている。流出土中に赤褐色土の素焼きの土器片が出土したが、摩滅が激しく他所から流入したものであろう。地山面では遺構は何ら検出されなかった。

第8トレンチ 東一西にのびる尾根上が平坦面があり台地状を呈している。その北隅にあたる位置に第8トレンチを設定した。巾2 m、長さ40 mである。トレンチ両端部では表土直下は地山であるが、トレンチ中央部では1 m以上の堆積土がある。地山は南から北へ傾斜し、且入江の如く平坦地にくいこんでいるので、元来の自然地形を呈しているのであろう。地山直上には流土が堆積し、その上層は明らかに整地のための土盛りがうかがわれる。すなわち中央の窪地を埋め立て整地して畑を作ったようである。この整地土層中に近世遺物が検出されるので整地は近世以降になされたものである。流土層、整地層のすべての層から遺物が検出された。瓦器、瓦等の中、近世の遺物が大多数であるが、サヌカイトの剥片が1個と、縄文式土器と思われる土器片が1片、他に須恵器片が10数点出土した。遺構としては耕土で埋められた小溝がトレンチ東端部で検出されたが、用途、築造時期は不明である。



第1図 第8トレンチ出土遺物(型押し土製品：メンコ)



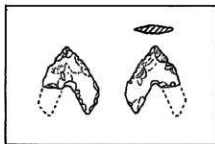
第2図 第8トレンチ出土遺物(須恵器高杯 実物大)

〔Ⅳ〕まとめ

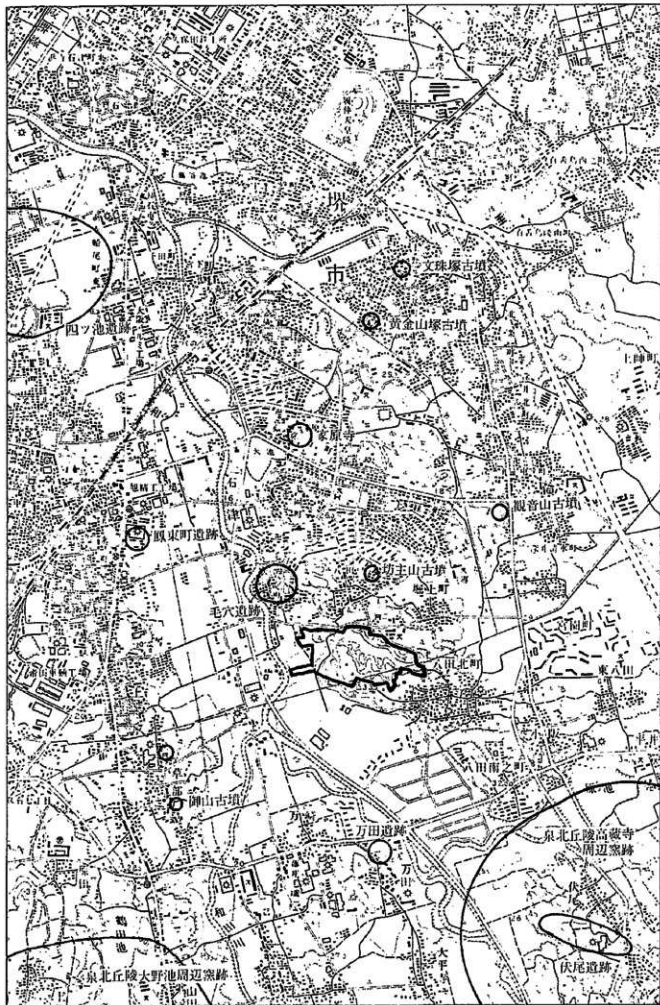
○第2、3トレンチで検出した遺構は、その性格、時代は不明であるが、古墳もしくは山城等の可能性が十分考えられる。

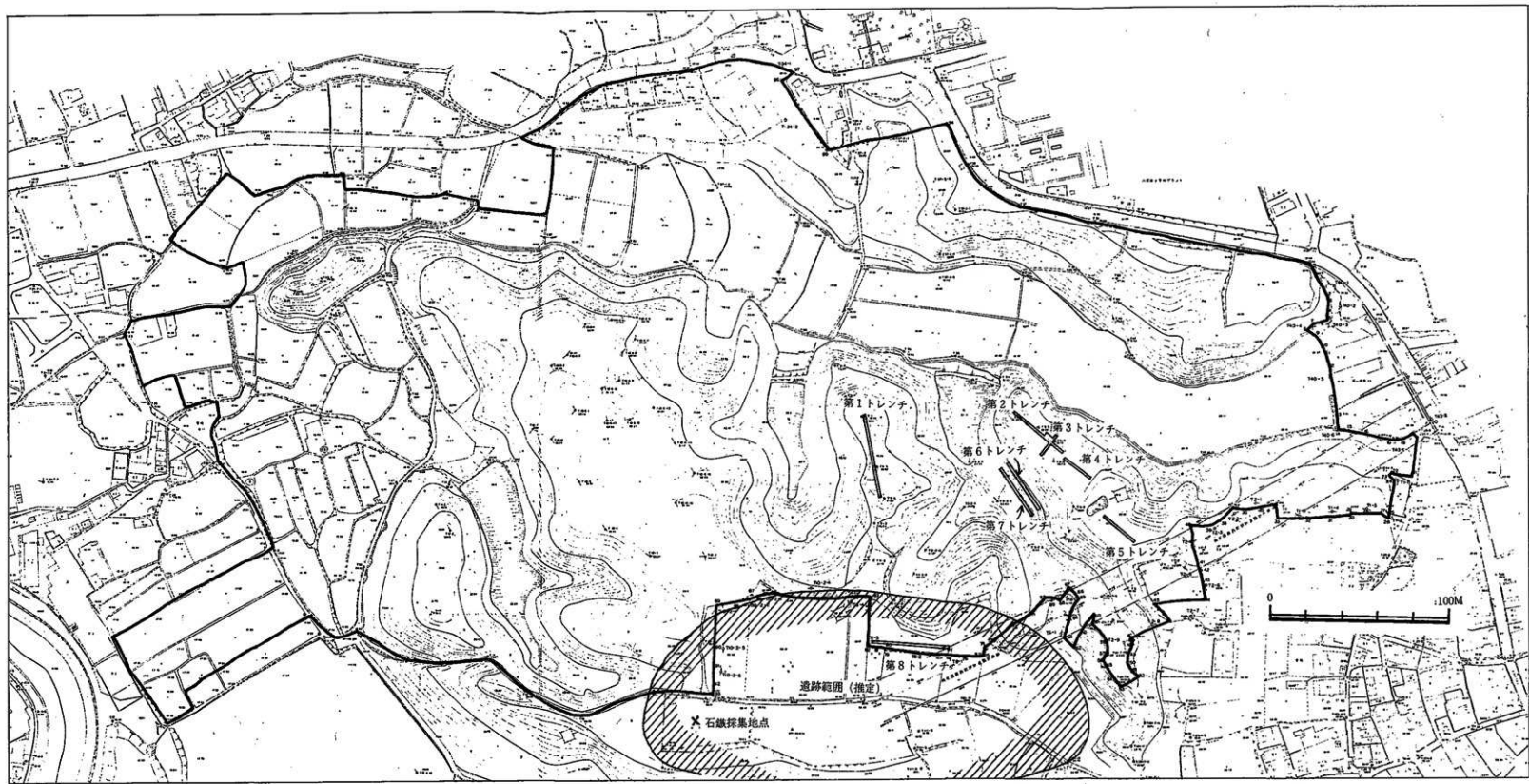
○第8トレンチ附近は、縄文時代、古墳時代及び中・近世に及ぶ複合遺跡の縁辺部にあたり、遺跡の中心は第8トレンチの南方、尾根の中央部にあると考えられる。(図版二の×印の地点で縄文時代の石鏃を採集した)

今回の開発予定地域に編入されている部分では、第8トレンチ西方で北に向ってのびる舌状丘陵上の平坦地が遺構の遺存が予想される地域である。



第3図 石鏃実測図(実物大)







第1トレンチ発掘状況



第2・第3トレンチ拡張区発掘状況



第4トレンチ発掘状況



第5トレンチ発掘状況



第8トレンチ発掘状況



第8トレンチ内溝状遺構